

研究主題

メンターの活用による若手教員の育成
～同僚性を活性化し授業力を高める校内研究のあり方～

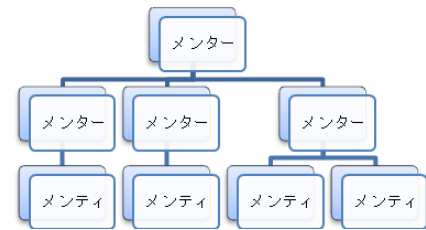
大阪市立生江小学校

1. 取組内容

①メンターの位置づけ

本校はチーム担任制をとり、低・中・高の隣接2学年ずつの『学部制』を組織している。各学部の先輩若手教員を「メンター」、さらに経験の浅い教員を「メンティ」と位置づけ、各学部で授業を見合い、アドバイスをし合えるようにした。また、経験5年目の教員が各学部のメンターをまとめる役目を担い、授業研究や研修内容に若手教員の意見が反映できるようにした。

組織図



②授業研究の持ち方

授業研究は研究授業の以外にも提案授業として公開することを奨励した。さらに、習熟度別授業やT. Tでの授業を積極的に取り入れ、できるだけ多く授業を見合えるようにした。

授業研究後の討議会では、ワークショップ方式を取り入れ、小グループで話し合うことで、経験の浅い教員が意見を言いやすい場をつくり、討議が活性化し研究が深まるようにした。

③授業力・集団育成力向上のための研修

今年度は、授業の中で集団を育てる方法について、外部講師を招いての研修を3回行った。

ちょんせいこさんには「信頼をベースにした学級集団づくり」について2回、土田光子さんには「学びでつなげる集団づくり」についてご指導いただき、授業と集団づくりが車の両輪であることを学んだ。

2. メンターの感想

- ・ 講師を迎えての集団づくりについての3回の研修は、自分の考えていたことがひっくり返されるような衝撃を受けた。学んだことを今後の学級づくりに活かしたい。
- ・ メンターとしての役割を十分果たせなかったので、来年度は若手のリーダーとして後輩や同僚の意見を聞き、積極的に研究や研修を企画していきたい。

3. メンティの感想

- ・ いろいろな授業を見ることができ、とても勉強になった。討議会で先輩の先生方の意見を聞いたり、自分でも改善点を考えたりすることで、「授業を見る視点」がわかってきたように思う。
- ・ 3回の研修では、学級集団づくりと授業とが別々のものではないことがわかった。どういう授業をするかで集団の質が決まってしまうことを意識して、授業研究をしたい。

4. 成果と課題

- ・ 授業研究を中心に据えて取組を行ったことで、経験の浅い教員が多くの授業を見て学ぶことができた。また、授業後の討議会の中に小グループでのワークショップを取り入れ、活発な意見交流を促した。その結果、「授業を見る視点」が明確になり、授業づくりに活かすことができた。
- ・ 研究部と連携して取組んだが、初年度だったため、「メンター」活用という特色を研究に反映することができなかった。